

あらたな学び

みどり市長(群馬県) **石原 条**
Jo Ishihara



動機

それはちょっとしたキッカケから始まりました。毎年6月に都内で開催される全国市長会議に合わせ、母校である法政大学出身者で構成するOB市長会も毎年この時期に開催しており、この日の総会・懇親会も同窓の先輩・後輩の皆さまと大いに盛り上がりました。毎年1回ではありますが、九州から北海道まで全国各地の情報交換や近況報告を私としても毎回大いに楽しみにしているところです。

OB市長会は市ヶ谷の法政大学校舎内で行われ、学校側からも田中総長はじめ多くの関係者も出席されました。そんな中、総



法政大学・田中優子総長と筆者(法政大学卒業生等市長会総会にて)

会終了後の懇親会の席で学校関係者の方と雑談をしている中で、私から「機会があれば、もう一度勉強してみたい!」という内容の話を申し上げたところ、それなら「ぜひ挑戦してみよう!」ということになり、一気に挑戦者魂に火が付いてしまいました。元々大学院での研究には興味を抱いており、数年前よりその機会をうかがいながら自分なりに調査や準備はしていました。が、決心するというのはこんなキッカケからなのだろうと思いました。

こうして挑戦すると決心した以上は、目の前に横たわるすべての問題を解決すべく、すぐに準備に取りかかりました。秋には始まる入学試験への準備がまず最初で最

大の難関ではありますが、これまで時間をかけて自分が取り組みたい研究はしてきたので、自分の思いや考えはそれなりにまとまっています。とはいえ、市長職に就任以降、自分自身が新人職員の面接試験をしてきましたが、50歳になって今度は自分自身が面接・口述試験を受験する立場になることは思ってもみませんでした。しかし、こうして受験に臨むに当たり言いようのない緊張感や期待や不



全国トップクラスの日照時間を生かし、市有の“太陽光発電施設”を設置

安は、なぜか心地よいと感じました。そして、何とか無事に試験に合格することができました。

学生として

合格通知もいただき、気持ちも新たに、春の入学まではあらためて修士論文作成のための準備に入りました。そして、春からは週2回、木曜日夕方からと土曜日終日の授業が始まりました。群馬からの遠距離通学は困難を極め、自宅に帰るころにはいつも日付が変わっていたものの、私と同

じように仕事を持ちながら通学をしている多くの同級生にも刺激され、何とか頑張ることができました。

私が入学したのは「公共政策研究科」であり、この仕事をしていく中でも大いに役に立つものでもありません。また、修士論文のテーマは「みどり市における自然（再生可能）エネルギー発電による電気エネルギーの地産・地消（ネット・ゼロ）の可能性」であり、概要はみどり市の地理的特性を生かした自然（再生可能）エネルギー（特に小水力や太陽光）発電で、みどり市役所はじめ市の所有する体育館や公民館など多くの公共施設の電力需要をすべてまかなうことは可能かというものであります。大学院ではこうした論文を作成することが最大の目的となりますが、修士課程の場合、学部生と



法政大学大学院公共政策研究科公共政策学専攻修士課程学位記

同じように授業を受け、所定の単位も取得しないと修了とはなりません。公共政策の授業はもちろんのこと、他の授業もとても充実しており、大学院という場所で久しぶりに勉強をすることの大切さも経験しました。それに、公共政策研究科の同級生は、その名のおりほとんが公務員であり、中央官庁はじめ都庁・県庁や市区役所の方々とも交流が広がり、その後も続いていることも大きな財産となりました。

社会人となり、時間の経過とともにどうしても経験値が高くなってしましますが、こうして学問として公共政策や政治を学ぶことは毎時間とても楽しく新鮮なことでありでありました。

還元

市長職という仕事をしながら都内への遠距離通学をすることができましたことは、周りの支援や協力があったからであり、心から感謝をしています。公務については最先ですが、私

が通学で出席できない会合などはきちんと正直に現在大学院に通

学している旨の話をさせていただきました。

そして、肝心の修士論文の成果でありませんが、さまざまな調査研究の結果、論文で仮説を立てたみどり市での公共施設すべての電気エネルギーを自然（再生可能）エネルギーでまかなうことは可能であると結論付けました。ただし、その実現には小水力発電を中心に太陽光発電を補完的に構成することが条件であるとも付け加えました。具体的には、市内北部を流れる渡良瀬川支流に数カ所の小水力発電所を設置することにあります。現在すでにエネルギー関連の間事業者が設置に向けて準備に入っている段階になりました。また、太陽光発電は不安定電源ではありますが、民間住宅への設置については引き続き設置補助金政策を続け、併せて蓄電池の設置補助事業も付け加えました。

莫大な量に及ぶ修士論文資料をすべてここで書くことはできませんが、私が大学院で2年間学び、そして研究してきたものは、必ずやみどり市政へ還元できるものと確信しています。そして、その成果は本市のような中山間地を抱える自治体に対して情報発信できると確信しています。

最後に、あらためてお世話になった指導教授の武藤先生はじめ多くの先生方、そして同級生に心から感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。